

会津に幼稚園を

明治二十五年（一八九二年）、そのころ会津若松までの鉄道はなかつたので、リンは歩いてふるさと会津若松にむかいました。峠を越えて会津の地をのぞんだリンは、なつかしきあまりそこに立ちどまってしまいました。

眼の前にひろがる会津盆地は、夕方のやわらかな光につつまれて、静かで平和でした。しかし、リンの心の中にはさまざまな思いが、大きくゆれ動いていました。

—— なつかしい小田垣の生家。（今の城東町）

—— 神尾ふさ子先生にならった裁縫の勉強。

—— 十七歳のときからの、夫の留守がちな結婚生活。